

慶應義塾大学法学部法律学科卒／

株式会社みずほ銀行 船橋支店長

1984年3月 卒業

「目の前にあるすべてのことに興味を持ち、

上出（旧姓 小川）朝子（高36）

自分が選択した道を着実に歩いていこう！」

## 1. 社会人としての私を形作ったもの

私は今、みずほ銀行船橋支店長として2年目を迎えています。船橋支店で3か店目、支店長としての経験は7年になりますが、未だに「支店長が女性!？」と方々で驚かれます。

私が入行した年は男女雇用機会均等法が施行されて3年目の年で、いわゆる総合職として入行しました。つまり、女性の先輩が数名しかいない状態でしたので、女性の扱いに戸惑っている上司、諸先輩を見て、こちらが戸惑いました。

学生時代には当たり前の様に男女共学で学び、競い合っていたのに、社会人になった瞬間に男性と女性は別ですと言われるのですから、この驚き、納得できない思いは経験した者でないと分からないと思います。

さて、銀行員になって27年。最近あるインタビューで「支店長になりたい思いで（27年間）頑張ってきたのですか？」と訊かれました。私は即座に「違います」と答えました。確かに、入行した当初より「いつかは支店長になりたい」と志しをもっていました。ハッキリと覚えています。でも、私が仕事を続けている一番の理由、原動力は、“社会に対する恩返し”です。

その素養は、一番は両親、特に母親からの教え、そして立川高校時代に養われたのだと考えています。

「自分が出来ることがあれば、惜しみなく、友達や他の人にしてあげなさい」と、幼少の頃より言われ育ちました。年子の兄がいますが、「女の子だから、こういうことをしなさい（或いは）しては駄目」とも言われず、部活、習い事と取り組ませてくれました。そして、多様性の環境、今ではダイバーシティの重要性が広く言われていますが、それを重視し、小学校から一貫して公立の学校で学ぶ様に導いてくれました。

## 2. 立高時代

これ迄の人生の中でもう一度経験してみたいのは、立川高校時代です。正確に言うと、やり直したいかな（笑）。勉強も部活（軟式庭球部）も行事も、全て中途半端だったと反省しています。それでも、自分を解放できたのが高校時代でしたので、楽しい時でした。

地元の公立に通っていたので、立高生の多くがそうであった様に、中学迄は優等生であることを求められました。勉強が出来ると生徒会や部活でリーダーであることを求められる、いつも周囲の目を気にしてイイ子でいなければいけないプレッシャーから解放された高校時代は、私に“自由”と共に“自分がやるべきことを考える機会”を与えてくれました。

立高での思い出は、,,、制服が無くオシャレを楽しんだ、学年に5人位いるGHQ以外は部活動をし、更に全員が年間を通じ行事に参加。3年生では文系・理系に分かれるが、それ迄は全員が数学、理科、社会と全教科取得。大会に負け3年生の夏頃に漸く部活から引退。勉強に軸足を移す。

「皆がやっていることに、決して過干渉しない、尊重し合う。学生の本分も忘れない」自由を与えられ、ヒトは自分で考え責任を持って行動するのだなと実感しました。

### 3. 現在の仕事

みずほ銀行船橋支店は、従業員数 100 名、法人の取引先から個人のお客さま迄担当する大規模な支店です。入行後、法人担当としてスタートを切ってから、商品企画・開発や店頭体制の企画など本部・支店と幅広い業務を経験してきました。その中でも、現在の支店長という業務が一番楽しい、自分には合っているのかなと思います。

私の責務は「永続的に強い支店を作る」ことだと考えています。支店が目指すべき方向を示すこと、支店長自身が一番の営業マンであり、同時にこれからの銀行を支えていく部下達を育成すること、仕事に専念出来る様部下達の仕事環境を整えること。その何れもが私の仕事です。私生活の相談もしょっちゅう聞きます。

部下から見てリーダーとして足りているかな？自分はみんなに何らかの影響を与えられているかな？と日々考えます。まだまだ途上にありますが、異動した後も慕ってくれる仲間がいることは、私の一番のモチベーションであり、仕事を頑張っていると付いてくるプライスレスなおマケです。

### 4. 立高生へのアドバイス

進学や就職の相談を受けると、「やりたいことが無くて決められない」と言う人が少なからずいます。「走りながら、見つければよいのでは」というのが私の答えです。もっと言うと「何をやる」ことより「やり続ける」ことが大切だと、私は考えています。やり続ければ、それはいつか確かなものになります。

実際、私も、初めから銀行員になりたかったわけではありません。大学の学部を決める時には医師になりたいと考えたこともありましたが、大学では法曹の道に進むことも考えました。今の仕事、自分の歩みに不満を覚えたことはないし、それは、他の職業を選んでもそうだと自信を持って言えます。

自分で考え、決め、それに向かって着々と努力をすることが大切なのです。結果として、自分が考えたことと違う道に進むこともしばしばです。でも、大学以降の経験は、全て自分で選択するものです。そう思えば、全てが自分の為、自分の責任なのです。

だからこそ、将来に向けて、目の前にあるすべてのことに興味を持って何でもやってみて下さい。自分自身の幅が広がります。人生において無駄なことは何もありません。身に付けたことは、いつか直接的にも役立つ時が必ず来ます。

私は今でもキュアリアス (curious) で新しいことにチャレンジしています。5年前からは英会話を再開。週3コマレッスンを受講すると共に、毎日1時間以上リスニングをしています。運動をするのも大好きで、今はまっているのは、ホットヨガ。朝はテレビ体操で身体を起こします。

### 5. 最後に

両親、立高で私の人生観が形作られ、今は夫に支えられ影響を受けています。

夫は医師で、結婚した頃はお互いの業界用語、慣習が理解できず、二人フラストレーションもありました。でも、ヒトを対象とするという職業と言う点で共通していますし、夫関係の仕事仲間や友人と接することで、自分自身の狭くなっていた考え方も広がりました。夫は私の愚痴も我慢強く聞いてくれます

し、英会話の勉強を再開したのも夫に付いて行った学会で外国人のドクターと会話したのがきっかけです。

二人仕事中心の生活ですが、朝食を一緒に取る、双方の付合いに顔を出す等し、一緒にいる時間を作っています。また、プライベートの時間は殆どありませんが、夫の都合を優先する様に心掛けています。これは、夫もまたその様に考えてくれています。夫と結婚し、自分の世界が拡がり、気持ちも安定し、それ迄にも増して仕事に集中出来る様になりました。

「ヒトは他者に活かされている。だから、自分が他者に対し出来る時は、惜しみなくする」

母から教えられたことです。健康でいられる限り、社会と関わり、社会への恩返しをしていくつもりです。



夫とフランス Avene 村にて (夫の海外出張に同行)